

ティンクルなごや通信

理事長あいさつ／療育部長あいさつ	1
フロアからの療育活動紹介	2-3
平成30年度職員・支援者向け研修会	3
リハビリ室スタッフ紹介	4

名古屋市重症心身障害児者施設
ティンクルなごや
指定管理者 社会福祉法人 むつみ福祉会
名古屋市北区平手町1丁目1番地の5
TEL: 052-916-0333

第5号
2019年1月

むつみ福祉社会30周年式典を終えて

社会福祉法人むつみ福祉会 理事長 富田偉津男

昨年11月3日、むつみ福祉会は、創立30周年記念式典を行いました。ご来賓として、名古屋市をはじめ、多くの皆様に参列頂きました。なかでも、全国重症心身障害児(者)を守る会の宇佐美常務理事と、社会福祉法人旭川荘の末光理事長にご来席を頂き、式典が盛り上りました。宇佐美常務理事は、当時、むつみ福祉会の立ち上げを決定づけた守る会全国大会の名古屋開催にご尽力いただいた方であり、末光先生は、むつみグリーンハウスやティンクルなごや立ち上げの時から、重症児者支援



を訓練してくださった、大変お世話になっている方です。

当時、一緒に汗を流した親御さんたちと20年ぶりに再会するなど、私にとって懐かしく、また、決意を新たにする日となりました。

ティンクルなごやでは、新院長の現場優先の姿勢を評価すると共に、新療育部長の11月からの着任により、一層療育体制が充実するものと期待しています。さらに、内科・小児科医師の補充という課題に向けて、全力を挙げて取り組みます。

利用者の方々の支援についても保護者の方々との意思疎通が進み、アンケートでも好評価となっているところもあります。24時間施設での職員の皆様の日頃の働きに感謝します。今後共、指定管理者としての重みを感じつつ、ティンクルなごやの一歩前進を心掛けていく決意です。

たくさんの笑顔に出会えるように

療育部長 渡辺則子

11月1日よりティンクルなごやに参りまして、療育部長を務めております。

20年余り重症心身障害児の方たちと関わる仕事を続けてまいりました。「相手の立場になることはできないが寄り添うことはできる」。その思いで、利用者・家族の皆様そして職員に寄り添うとともに、利用者の皆様のたくさんの笑顔が見たいと、ずっと思ってきました。これはティンクルなごやに来た今も変わりません。

また私は、「人を人として大切にする」ことを信条にしています。自分が大切にされたいと思うように、利用者・家族の皆様と職員を大切にしたいと考えてい



ます。そして利用者の皆様と接するときには、利用者様の良い笑顔をたくさん見ることが出来るように心がけています。

私が笑顔でいられる時というのは、どんな時でしょうか？体調が良くて、気分が良い時ですよね。利用者様も同じだと思っています。利用者様は健康レベルが不安定で低い方たちです。でも、それがその方の健康レベルなのです。それを維持できるように支援していくこと。そのための正しい観察が大切です。

そして、気分が良いとはどういうことでしょうか？五感で心地よいと感じることですよね。この感じ方は、人によって様々だと思います。その方お一人お一人に、よりたくさんの心地よさを感じていただき、良い笑顔をもっと引き出せたらと思います。そのためには、支援する側の職員も笑顔でいられることが大事です。職場も私生活も笑顔でいられるといいですね。たくさんの笑顔に出会えるように努力いたしますので、よろしくお願ひいたします。

フロアからの療育活動紹介

利用者が様々な体験を通して得られる成長を、スタッフは毎日楽しみにしています。
そして、各フロアのスタッフも楽しみながら、工夫を凝らして療育活動を計画しています。その一部をご紹介します。

音楽療法

現在、3階東フロアでは、月に3回、3~4人の少人数グループでの音楽療法を実施しています。

主に、童謡や聴きなじみのある曲を選んで利用者さんへ歌いかけたり、歌や目的に合わせて用意した楽器などと一緒に触れて、振動を感じたりしています。そこで得た反応などをもとに、利用者さんお一人お一人に合った個別の目標を決めていきます。少人数で実施していくことで、利用者さんお一人お一人にも目が行き届きやすくなります。

また、利用者の様子や身体の動きに合わせて、より楽器に触れやすくなるように、楽器の提示の仕方を工夫しています。たとえば、楽器(ギター)の裏面に触れてもらった状態で弦をはじいて見せることで、利用者さんが振動を体感しやすくなるようにします。

現在は、3階東の利用者さん全員を対象に音楽療法を実施していますが、今後は人数を絞って行い、利用者の反応をたくさん引き出していくように計画

をしていきます。

私はこれまで、施設開所式で、学生時代の同級生と演奏をさせていただいたり、施設内行事のクリスマス会やお誕生日会で、ピアノやクラリネットの演奏をさせていただきました。一昨年のティンクルまつりでは、名古屋音楽大学音楽療法サークルの皆さんに、そして昨年11月のむつみ福祉会創立30周年の記念式典では、アイリスクラリネットカルテットの皆さんに、演奏のご依頼をさせていただきました。このように、施設の皆さんに生の音楽をより身近に感じてもらうためのお手伝いができていることを、嬉しく思っています。

相木奈美（3階東 生活支援員）



初めての社会見学

7月に、2階の利用者さん2名とスタッフ2名で、初めて名古屋港水族館へ見学に行きました。

最初はメインプールでイルカショーを見ました。人が多くて暑い中でしたが、席を案内していただき混雑を避けて見ることができました。利用者さん達も、心地よい潮風や香りといった、いつもと違った刺激を感じられたようで、落ち着いた表情をしてみました。

水族館では、マンツーマンで利用者さんと接することができました。安全のために付けているミトンも外し、手を握って話しかけながら、広い水族館を周っていると、あっという間にお昼になりました。利用者さんの背部は汗でびっしょりになり、栄養を注入する前に、個室でおむつ交換

と着替えを行いました。普段は、施設内で快適な空調のもとで過ごしていますが、この日は、夏をたくさん感じられたと思います。

普段はこのように、利用者さんと1日一緒に過ごすことができないので、またぜひ機会を作って、利用者さんがまだ見たことのない世界と一緒に見たり、一緒に体験したいと感じました。そして、今回の五感すべてで夏を感じた体験のように、利用者さんが色々な体験を通して、もっと成長してもらいたいと思いました。

八重尾みちよ（2階 看護師）



京都体験 ♡

3階西フロアでは、毎月テーマを決めて療育に取り組んでいます。春夏秋冬の療育や利用者さんのお誕生日会などに加えて、毎月「旅行に行ったような気分を楽しむことができる療育」を、今年一年の取り組みとして行ってきました。

11月は、秋の京都をテーマにして療育を行いました。利用者さんに、どのように京都を感じてもらうか、どのような方法で京都を体験して頂くかを検討し、今回は「抹茶」を味わってもらうことにしました。

まず、京都らしい雰囲気を演出できるよう、紅葉や鞠の飾りつけをした壁面に、琴や三味線などのBGMを流しました。

そして、実際に抹茶をたててみました。茶筅や抹茶茶碗など、あま



り見たことがない利用者さんも多く、興味津々でした。道具を握って抹茶をたてると、いい香りがフロア中に広がり、匂いをかごうとされる利用者さんもいらっしゃいました。

茶筅に手を添えたり、握ったりして楽しんだ後、少し薄めて飲んでみました。ごくごく飲まれる方、あまり飲んだことのない方に驚かれる方、苦いと言うような表情をされる方、自分でたてた抹茶を飲んで、美味しいかったと表される方など、利用者さんの反応は様々でした。「味わう京都」を体験する療育でした。

内山友里・田尻汐璃（3階西 生活支援員）

平成30年度 職員・支援者向け研修会

社会福祉法人明世会 信愛医療センター長：麻生幸三郎先生に
「重症心身障害児者施設の行方」をテーマにお話いただきました。

昨年12月8日（土）ティンクルなごや多目的室にて、平成30年度職員・支援者研修会を開催しました。県内の重症心身障害児者施設や生活介護施設、地域療育センターなどの職員116名の方々が参加してくださいました。

麻生先生は、重症心身障害児者支援の歴史を踏まえた上で、ノーマリゼーションと優生思想の歴史や、それをめぐるトピックに触れながら、支援者・家族が一人一人の重症心身障害児者を一人格としてとらえて、接することの大切さについてお話をされました。その中で、海外との比較で、わが国の重症心身障害児者施設が、重症心身障害児者とその家族を支える機能と役割を持っていることに触れ、県内の施設増加の背景と今後求められる役割について、信愛医療センター開設の経緯をもとに語られました。

「（障害者を見ると）やむにやまれぬ思いを胸に、

日々重症児者の方に接すれば、そこに一人の人格を認めるようになります。この視点が重症児者の医療福祉に携わる者にとっては、一番大事なんだろうと思います。今後も私たちがこの視点を持ち続け、育て、それが障害者への価値判断を上回り続けるのであれば、重症児者施設はさらに発展していくでしょう」と、講演を締めくくられました。その言葉に深い意味を感じつつ、今後“やむにやまれぬ思い”を大切に実践していく必要を感じました。

山口徳郎（地域連携担当 相談員）



リハビリ室スタッフ紹介 「できた瞬間の喜び」のために

4月から理学療法士として勤務している古川です。現在リハビリ室では、理学療法士4人と作業療法士1人が勤務しており、週に2~3回利用者さんにリハビリテーション（以下「リハビリ」とする）を提供しています。

私は平成28年7月から約1年半の間、2階フロアで学生アルバイトとして勤務しておりました。きっかけは、障害者スポーツとの関わりから、重い障害の方はどんな生活をしているのだろうかとの疑問からでした。アルバイトでは、フロアで環境整備や療育への参加、入浴の介助などをさせて頂きましたが、その中で、利用者さんの何かできた時の喜びの表情が忘れられず、重症心身障害児者のリハビリに関わりたいと思うようになりました。

そのご縁から、昨年理学療法士になり、ティンクルなごやで勤めています。リハビリでは、呼吸、食事、筋緊張への介入など、関わることが多々あり、勉強の毎日です。日常

のリハビリ時、利用者さんは、座ったり、立ったり、肩の上げ下ろしを行ったり、小さなことでもできた瞬間は、とても良い喜びの表情をして頂けます。実際にその様子を見て頂いたご家族の方にも、「こんなことができるんだね」と喜んで頂き、そんな時はとてもやりがいを感じています。まだ至らないことが多いのですが、ご家族の方を初めとして、医師、フロアスタッフと協力して、利用者さんにとって良いリハビリを提供できるよう努めていきます。

リハビリの様子を見学したいというご意見もたくさん頂きました。週単位でリハビリの予定を出していますので、近くの療法士やフロアスタッフにお尋ねください。私共も、在宅時の様子や要望などをご家族の方にお聞きしながら、一緒にリハビリを作り上げていくことができればいいな、と考えています。

（理学療法士 古川慎一郎）



■公共交通機関でお越しの方

- 栄より／市バス栄11系統「西部医療センター」又は「志賀公園前」下車
- 名古屋駅より／市バス名駅13系統「又穂住宅東」
／市バス名駅15系統「城見通二丁目」下車

■お車でお越しの方 「黒川」出口から約10分です。

ティンクルなごや
〔指定管理者〕社会福祉法人 むつみ福祉会

名古屋市重症心身障害児者施設 TEL: 052-916-0333

名古屋市北区平手町1丁目1番地の5

FAX: 052-916-0338

ホームページでも、日々の生活の様子や職員メッセージを配信しています。ぜひご覧ください。

<http://twinkle-nagoya.com>

